

作品介绍

「奄美の泥染」

1989年/31分/鹿児島県教育委員会

撮影地：鹿児島県大島郡電郷町・笠利/名瀬市

伝統的な衣食住には、それぞれの地域の風土や歴史が、色濃く反応し、さらには地域性を越えた人間の資質の奥深さがにじみでている。

大島紬は、基本的には絹の平織の織物だが、それが泥染と呼ばれる技法で染められ、緻密な模様仕上げられるところに特色がある。

テーチギ(シャリンバイ)の煮汁と鉄分を含んだ田の泥による染めの技法。

奄美の泥染の名が、大島紬の別称であるゆえんである。…(民映研作品総冊子より)

「武州藍」

1986年/42分 撮影地：埼玉県羽生市/熊谷市

武蔵国で藍が作り始まったのは江戸時代という。

これはその栽培地から染めまでの伝統的技術と習俗の記録である。

藍は生きものだという。機織の良し悪しがある。

その藍の様子を丹念にみながら染める技術には、職人の技と祈りが込められている。

講師紹介

山崎樹彦氏

草木染の命名者、山崎斌氏から三代目。

暮らしが根ざす土地に軸を置き、身近な植物に丁寧に向き合い、祖父の代より染めを追求してきた草木屋さん。山崎さんがはぐくむ色は風土が生み出した色。土地を潤す水を介し、そこから生まれる草木の恵みを頂き、人の手による手仕事。そして水が帰ってゆく山野に負担をかけずすべてを土に還すこと。その姿勢を大切にしながら、昔の人の確かな知恵を土台にして、風土と共に草木染に向き合っている。

